

音楽表現コース入試 実技検査に関する Q&A

入試の学力検査教科・科目と、音楽実技検査科目については、本学の入学者選抜要項もしくは学生募集要項をご覧ください。

入学者選抜要項、学生募集要項は、大学ホームページ【入試情報】のページで確認できます。

また、各選抜の募集要項の入手方法についても同じところに情報がありますので、ご参照ください。

令和元年入試までの過去問題は、音楽之友社から毎年出版されている音楽大学入試問題集に掲載しています。

情報開示している事項のうち上記で確認できるものは、それ以上の詳細について、公平性の観点から個別のご質問にはお答えしていません。

以下は、7月に行われるオープンキャンパスなどで実際に出た、入試に関する質問を掲載しております。

Q1. 学校推薦型選抜での小論文、実技、面接の配点の割合を教えてください。

A1. 学校推薦型選抜における小論文、実技、面接の配点の割合は公表していません。

Q2. 推薦入試の過去問題は、入試課に実際に行かないと非公表の部分は閲覧できないのですか？

A2. 大学ホームページより（トップページ「入試情報」→「過去の入試問題」）、過去3年分を閲覧できますが、著作権のため非公表の部分があります。

お茶大の入試課内では、過去3年分については、全ての内容の閲覧が可能です。

コピーやスマートフォンでの撮影は不可となっています。

Q3. 学校推薦型選抜実技試験の持ち物の中に、スリッパとありますが、高校で使用している上履きや体育館履きでよいですか。

A3. 高校で使用している上履きや、室内専用に行っている履物でも結構です。

Q4. 実技試験では本番前に練習時間は設けられますか？

A4. 練習、発声練習（声出し）などは一律に不可とします。

Q5. 演奏課題の音階（ハノン）について、求められる速さ、理想的な速さはどのくらいですか？

弾くのは長調とその平行調の組み合わせ1つですか？

また、調の指定はいつ行われますか？

A5. 速さについては、ハノン 39 番準拠、という条件の中で、各自で最適解を見つけてください。

弾くのは1つの課題調（長調とその平行調）となります。和声短音階の後つづけて旋律短音階を弾き、最後に一度だけカデンツを弾いて終了します。

調の指定は、入試要項に記載の「2. 演奏課題：b. ピアノ」の試験の前に、抽選によって決定します。

Q6. 実技検査のピアノの項目には、「ベートーヴェンのピアノソナタの中から任意の一曲の第一楽章を演奏する」とだけ書かれていますが、繰り返しやリピートもして演奏すると解釈してよいですか。

A6. 各自の判断で決定して結構ですが、運営の都合上演奏を途中で止める可能性はあります。

もちろん、可否の判定とは無関係です。

Q7. 実技試験における新曲視唱は伴奏付きですか？

また、歌唱の際は固定ドで歌わなければなりませんか。

A7. 伴奏はありません。また、歌唱方法につきましては、固定ド・移動ド・ヴォカリーズのいずれでも可とします。

なお、予見時間について公表はしていません。

Q8. ソルフェージュの聴音について、単旋律・2声体・4声体の和声は、それぞれ何回演奏しますか？

音符の書き方や筆記用具の指定はありますか？

A8. 聴音試験の演奏回数や演奏の方法については公表していません。

なお、音符の書き方（音符の黒丸を斜め線で表すなど）や筆記用具については指定しません。

Q9. 実技関係調査書の曲名の書き方を確認していただけますか？

A9. 公平性の観点から、行いません。ただし、遂行上支障があるような不備（声楽で提出楽譜との間に齟齬がある時など）があった場合、こちらから問い合わせる場合もあります。

Q10. 学科のアドミッションポリシーに「英語と歴史はしっかりと身につけてきてください。」とありますが、歴史を選択履修している必要がありますか？

A10. 「歴史をしっかりと身につけてきてほしい」というのは、共通テストでの歴史選択を義務付けるものではありません。受験科目としてではなく、世界史や日本史の関連書籍を読むなど、個人的に学んでおくと、入学後の西洋音楽史や日本音楽史の理解の助けになります。